



AA日本ニューズレター

No.205

■「未来へ受け渡していくもの」45周年記念集会オマージュ企画を終えて

企画担当常任理事 村川

AA日本45周年記念集会は、2020年3月に尼崎で行われる予定でしたが、残念ながら集会は中止になりました。一年後の2021年3月20日(祝)。常任理事会主催の初めてのオンラインイベント、「AA日本45周年記念集会オマージュ企画～未来へ受け渡していくもの～」が開催されました。

ゲストには、北米AAミシェル常任理事会議長とトリッシュ全州選出理事(WSM評議員)を招待し、世界7か国、延べ約500名のメンバーが参加され、スマホではなく電話からも数名が参加されました。当日は実行委員、テック・通訳ボランティアなど、本当に多くのメンバーがサポートしてくれました。

このオマージュ企画のみならず、AA日本45周年記念集会に携わってくださった全てのメンバーに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

今から一年半前、2020年の2月。評議会が終わり、実行委員会も常任理事会も急ピッチで準備を進めていくなか、新型コロナウイルス感染症のニュースが世間を騒がせ始めました。常任理事会は、急遽臨時会議を開き記念集会の中止を決定しました。実行委員の5年間の苦労や、楽しみにしていたメンバーたちの気持ちを考えると誰にとっても苦渋の決定でした。計り知れない思いを抱える中、45周年記念集会実行委員会より「英訳用を書いて頂いたメイン会場のスピーチ原稿があるので活用できないか？」との良心をお預かりしました。

その後、4月に緊急事態宣言が発せられ、全国的にほぼすべてのミーティングが閉鎖するというAA日本始まって以来の未曾有の危機に直面しました。しかし、この危機に際しメンバーたちの対応は素早く、オンラインミーティング・感染防止策を講じたリアルミーティングと様々な課題や困難を乗り越えながら全国各地で多くのメンバーが奔走し、メッセージを運び続ける姿に勇気づけられました。一方、常任理事会では45周年記念集会実行委員会から託された良心に対して、大勢が集うイベントの開催が難しい状況にあっても私たちの一体性を保ち、新しいメンバーへ希望のメッセージを伝える。文字通り「未来へ受け渡していく」ために、オンラインイベントの開催を決定し、企画担当理事の理事会委員会を中心に実行に移していきました。

企画を進めていく途中、準備期間の短さや責任の重大さに「恐れ」の感情に何度も支配されそうになり苦しい思いをしていました。

そうした折、関西地域の45周年記念集会実行委員会より収支報告と領収書の綴りが届きました。その一枚一枚の領収書からは、一人一人のメンバーの思いや情熱が伝わってきました。仲間たちの気持ちを受け取ることと信じる気持ちが蘇り、恐れは小さくなっていきました。前号のニューズレターに掲載されたように、多くのメンバーが努力を重ね、オンラインで無事に評議会も開かれました。多くの目には見えない無名のメンバーの努力がいつも費やされていることに、改めて気づかされました。

1935年にビルとボブが出会い始まったメッセージが、時間と距離を越えて運ばれ、今の私の手に届いている奇跡は、こうした一つ一つ、一人一人の無名のメンバーの手を経てきたものだという証拠を実感しました。全てのメンバーへのハイヤーパワーへの感謝が古く馴染んだ「恐れ」を、新しい「尊敬」の気持ちに変えてくれました。

委員会で決めたオンラインイベントのコンセプトはオマージュ(*尊敬・敬意を込めた模倣)。45周年記念集会のテーマ「未来へ受け渡していくもの」をそのまま使い、プログラムは3日分のプログラムを半日分に抜粋しました。7つの地域ごとに様々な背景を持つアルコールのスピーカーと、海外ゲストやAA日本10周年に参加した横須賀基地のメンバーのスピーチ。カウントダウンと最後に50周年記念集会実行委員会へとバトンを受け渡すこともできました。

そして、実行母体となった理事会委員会そのものも、「未来へ受け渡していくもの」をコンセプトに、テクノロジーチーム、通訳チーム、カウントダウン司会にヤングのメンバーと、多くの仲間に参加しても

は、2016年の評議会で決まり、2018年の評議会ではさらに具体的に2018年に「個人の物語」の募集をすることと、改訂版発行時期は2025年を目処とすることが決まりました。評議会の勧告事項は常任理事会が責任を持って進めていくことになります。私は2018年4月に出版担当常任理事となり、当時始まったばかりのこのプロジェクトを前任理事から引き継ぎ3年が経ちます。

■『個人の物語』再編について（BB再編委員会・選考委員会）：

2018年秋から2020年7月末までのビッグブック「個人の物語」原稿募集期間に35編の応募をいただきました。応募いただいたメンバーの皆さまには心よりお礼申し上げます。2020年8月に再編委員会で1次選考を実施し35編に現在のビッグブック収録の12編を加えた計47編から26編まで絞られており、これから最終選考となります。

今年4月に最終選考に向けて母体となるBB再編委員会内に、新たに選考委員会を立ち上げました。選考委員は5名でノンアルコール委員は大嶋栄子A類常任理事と岡崎直人元A類常任理事のお二人と、アルコール委員は元評議員メンバー3名です。4月中旬とGW中にオンライン会議を開催し、BB概要、スケジュール、再編方針、選考基準、評価リストの妥当性、今回取り入れる3部構成の考え方などについて闊達な議論を実施しました。現在は各委員に原稿を読み込んで頂いており、8月には2回の選考委員会を実施し収録する物語を決定予定です。

なお、物語確定後も日本語校正や目次やページ調整、新たな表紙検討、そして前半部分の訳語見直しの兼ね合いもあり改訂版発行まではまだ数年かかる見込みです。関心を持って見守っていただければ幸いです。

■ビッグブック訳語の見直しについて（訳語検討委員会）：前回の訳語改訂から20年のあいだにJSOに寄せられたものも含め、約80件の訳語変更意見について、訳語検討委員会を発足し検討を行っています。委員会は昨年10月に発足しました。構成は、翻訳、出版物に対して見識を有するJSO職員含む委員4名とファシリテーター、書記、出版担当理事の8名です。すでに8回開催し計26時間、毎回密度の濃い検討がされています。6月5日の委員会で約半分が終わり残り37件となります。各委員が意見を考えてきても、検討委員会内での検討中に様々な意見が出て、旧版や複数の辞書や資料、場合によっては1939年のアメリカ初版出版当時の背景資料も確認し、原文の意図を把握し相応しい日本語を当てはめていくのは、当初の見通しよりかなり時間が掛かることが判明しましたが、スピードより内容を優先の方針で確実に進めています。20年、30年後の改訂のときに今回の内容を参考にできるよう詳細

な記録を取っています。今年の評議会で決まったプロセスのとおり、常任理事会への報告審議を経て、評議会に承認依頼の議題を提出する予定です。

■最後に：『アルコールリクス・アノニマス』（ビッグブック）ハードカバー版はJSOと各地域セントラルオフィスにて税込3,000円＋送料、またはAmazonにて税・送料込3,666円で頒布しております。ご興味をお持ち頂いた皆様はこの機会に購入して、ご自身や周りの方の回復にご活用いただければ幸いです。ご不明点はJSOまでご連絡ください。

916頒促委員会（BOX-916関連の新しい委員会）

-+---+-*--+-*--+-*--+-*--+-*--+-*--+-*--+-*--+-*--+-*--+-*

西日本選出常任理事 BOX-916 担当 佐藤

コロナ禍の影響でBOX-916（回復のための誌上ミーティング）の購読数が、めっきり減少しています。グループでの購読を停止する件数も増加傾向にあります。

対面でのAAミーティングがなかなか行なわれず、直接出会う機会も減っている中、グループで纏めて購入されたBOX-916の配布や、精算もままならない実情だとお察しします。なかなか厳しい状況だとは存じますが、AAメンバーの方々には、一冊でも多くの購読や頒布拡大にご協力を、何とぞよろしく願いいたします。

そうした中、今年3月にBOX-916関連の新しい委員会が発足いたしました。まずは、委員会の名称について話し合いました。現在、原稿の募集や編集を行っている「BOX-916編集委員会」（2008年より発足）との混同を避けるために「916頒促委員会」という名称でのスタートとなりました。

この「916頒促委員会」は、頒布拡大を目的として今後活動していきます。日本のAAのため、仲間のため、いま苦しんでいるアルコールのため、という意識の元、任を務めさせていただきます。

そしていま、コロナ禍の影響で購読数が毎月のように減少していく中、頒布拡大につながるアイデア、そして打開策として何かよい手立てはないものかと、いろいろと模索中です。

まず手始めに、JSOホームページで「BOX-916」の「購読申込み案内の掲示」を予定しています。（年間購読申込みの、ご案内）

その他にも、頒布推進のためのチラシやレター、しおりの作成なども進展中です。というように、様々な企画を練って、なるべく早めに実行に移していきたいと思っております。

ところで、最近私が参加しているオンラインのミーティング会場に、BOX-916の読み合わせをおこない、その日のテーマとしているところがあります。BOX-916の記事のほとんどは、現在も活動中のAA

